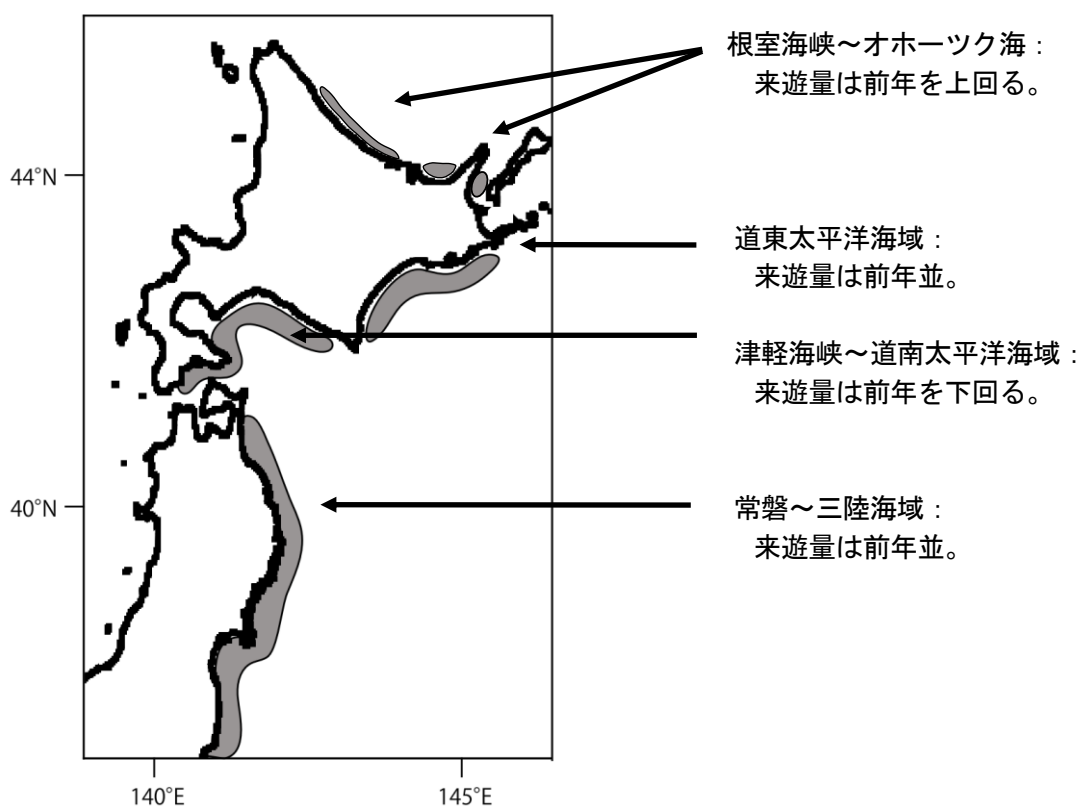


2019年度 第2回 太平洋スルメイカ中短期漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し一般社団法人漁業情報サービスセンターがとりまとめた結果 －

今後の見通し(2019年11月)のポイント

スルメイカの来遊量は、道東太平洋海域および常磐～三陸海域では前年並、根室海峡～オホーツク海域では前年を上回り、津軽海峡～道南太平洋では前年を下回る。海域別の予報については以下の通り。



問い合わせ先

一般社団法人漁業情報サービスセンター 漁海況部
担当：渡邊、藤井
電話：03-5547-6889、ファックス：03-5547-6881
当資料のホームページ掲載先URL
<http://www.jafic.or.jp/gyokaikyo/>

国立研究開発法人水産研究・教育機構
<http://abchan.fra.go.jp/>

2019年度 第2回 太平洋スルメイカ中短期漁況予報

今後の見通し（2019年11月）

対象魚種：スルメイカ

対象海域：道東太平洋海域、根室海峡～オホーツク海、津軽海峡～道南太平洋海域、常磐～三陸海域

対象漁業：いか釣り、底びき網、定置網、まき網

対象魚群：冬季発生系群（2019年級群）

1. 道東太平洋海域（いか釣り、底びき網）

- (1) 来遊量：前年並に少ない。
- (2) 漁期・漁場：漁場は散発的となり、11月で終漁となる。

2. 根室海峡～オホーツク海（いか釣り、定置網、底びき網）

- (1) 来遊量：前年を上回る。
- (2) 漁期・漁場：明瞭な主漁期が無いまま終漁する。

3. 津軽海峡～道南太平洋海域（いか釣り、定置網）

- (1) 来遊量：前年を下回る。
- (2) 漁期・漁場：対象期間を通じて漁場となる。

4. 常磐～三陸海域（いか釣り、底びき網、定置網、まき網）

- (1) 来遊量：前年並に少ない。
- (2) 漁期・漁場：対象期間を通じて漁場となる。

I 予報の説明

第2回太平洋スルメイカ長期漁況予報の公表後の漁況の経過等を主要な情報として、11月におけるスルメイカの来遊量を予測すると、道東太平洋海域および常磐～三陸海域では前年並、根室海峡～オホーツク海域では前年を上回り、津軽海峡～道南太平洋では前年を下回る。各海域における見通しは以下の通りである。

1. 道東太平洋

この海域に来遊する漁獲対象資源は、太平洋沖合を北上する群と考えられる。2019年8月～9月に実施した太平洋第2次漁場一斉調査とイカ類南下期資源調査*の結果によるCPUE（いか釣り機1台1時間当たり漁獲尾数）は道東周辺海域では0.42尾であり、前年（2.62尾）を下回った（図1）。また釧路以東（144.4°以東）では、前年並であった。

8月下旬～10月中旬における小型イカ釣り漁船による漁況は、8月下旬～10月中旬に花咲港で、8月下旬～9月上旬に厚岸港で漁獲があったが、釧路港では漁獲がなかった（前年は8月に厚岸港でのみわずかに漁獲があり、9月上旬～下旬および10月中旬は厚岸港、釧路港、花咲港で漁獲があり、10月上旬は漁獲が無かった）。本年10月上旬～中旬における道東太平洋主要港における漁獲量は前年を下回り（前年10.0トン、本年2.8トン）、CPUEは前年を下回った（前年0.16トン/隻/日、本年0.09トン/隻/日）。

これらのことから、8月～10月中旬の道東太平洋への来遊量は前年を下回り、また、今年は前年と比較して道東海域の東側に群が偏っていたと考えられる。FRA-ROMS**による11月の予測水温（図2）から、11月下旬にかけて道東沿岸の水温が低下することから、魚群が西へと移動する可能性がある。

以上のことより、11月の道東太平洋への来遊量は前年並に少なく、また漁場は散発的となり、11月で終漁となると予測される。

*北海道立総合研究機構釧路水産試験場が独自に実施。

**国立研究開発法人水産研究・教育機構により開発され、2012年5月より運用を開始した海況予測システム

2. 根室海峡～オホーツク海域

この海域の漁獲対象資源は、太平洋沖合を北上する群が主体と考えられる。羅臼港における10月上旬～中旬の小型イカ釣り漁船による漁獲量は前年を上回った（前年6.6トン、本年58.5トン）。また、釧路以東（144.4°以東）でのイカ釣り調査のCPUEは前年並であった。国後島および択捉島周辺の太平洋側における11月の予測水温（図2）は例年よりも高いため、スルメイカが太平洋からオホーツク海への回遊を妨げる海況ではないと考えられる。以上のことから、11月の根室海峡～オホーツク海域への来遊量は前年を上回るものの低水準と予測される。ただし明瞭な主漁期は無いまま終漁すると予測される。

3. 津軽海峡～道南太平洋

この海域の漁獲対象資源は、津軽海峡～道南太平洋海域に分布する群と道東太平洋海域から南下する群が主体と考えられる。

10月上旬～中旬における小型いか釣り漁船による漁況は、以下の通りであった。大畑港における漁獲量は、前年並で(前年 5.0 トン、本年 4.4 トン)、CPUE は前年を下回った(前年 0.07 トン/隻/日、本年 0.03 トン/隻/日)。函館港における漁獲量は、前年を上回り(前年 8.7 トン、本年 22.0 トン)、CPUE も前年を上回った(前年 0.05 トン/隻/日、本年 0.11 トン/隻/日)。浦河港における漁獲量は、前年を下回り(前年 67.3 トン、本年 14.4 トン)、CPUE は前年並であった。(前年 0.21 トン/隻/日、本年 0.21 トン/隻/日)。大畑港、函館港、浦河港の全体で見ると、漁獲量は前年を下回ったが(前年 81.0 トン、本年 40.8 トン)、CPUE は前年並となった(前年 0.12 トン/隻/日、本年 0.11 トン/隻/日)。

以上のことより、10月上旬～中旬における当海域への来遊量は前年並であったと考えられる。また前述の通り、10月上旬～中旬の道東海域への来遊量は前年を下回ったと考えられ、11月の道東太平洋への来遊量は前年並に低い水準であると予測されること、津軽海峡～道南太平洋における太平洋第2次漁場一斉調査の結果より CPUE は 0.15 尾であり、前年(0.88 尾)を下回ったことから、当海域(津軽海峡～道南太平洋)へ来遊する南下群が前年並に少ない可能性がある(図1)。以上のことから、11月の津軽海峡～道南太平洋への来遊量は前年を下回ると予測される。

4. 常磐～三陸海域

この海域の漁獲対象資源は、常磐～三陸海域に分布する群と道東太平洋海域から南下する群が主体と考えられる。太平洋第2次漁場一斉調査では常磐～三陸海域において漁獲がなく、前年(0.02 尾)を下回った(図1)。

10月上旬～中旬における小型いか釣り漁船による漁況は、以下の通りであった。青森県の白糠港、泊港、三沢港、八戸港における合計漁獲量は、前年並(前年 43.0 トン、本年 50.9 トン)、CPUE は前年を下回った(前年 0.28 トン/隻/日、本年 0.17 トン/隻/日)。岩手県主要7港における漁獲量は、前年を下回り(前年 20.8 トン、本年 8.6 トン)、CPUE は前年を上回った(前年 0.08 トン/隻/日、本年 0.11 トン/隻/日)。宮城県(石巻・気仙沼・女川・志津川)の小型いか釣り漁船による漁獲量は、前年を下回り(前年 1.1 トン、本年 0.03 トン)、CPUE も前年を下回った(前年 0.02 トン/隻/日、本年 0.01 トン/隻/日)。青森県白糠港～宮城県石巻港全体における小型いか釣り漁船による漁獲量は前年並(前年 64.9 トン、本年 59.5 トン)、CPUE も前年並(前年 0.13 トン/隻/日、本年 0.16 トン/隻/日)であった。

以上のことより、10月上旬～中旬における当海域への来遊量は前年並であったと考えられる。さらに、前述の通り、10月上旬～中旬の道東海域への来遊量は前年を下回ったと考えられ、11月の道東太平洋への来遊量は前年並に少ないと予測されることから、道東太平洋から本海域へ来遊する南下群が前年並に少ない可能性がある。以上のことから、11月の常磐～三陸周辺海域への来遊量は前年並と予測される。

Ⅱ 各海域の漁況経過（8月～10月中旬）

2019年8月～10月中旬の宮城県以北の太平洋沿岸主要港でのイカ釣り漁による水揚げ量（生鮮：速報値、一部未集計）は2269.5トンで、前年（1580.5トン）を上回った。以下各海域別のイカ釣り水揚げ量を示す。

1. 道東太平洋

道東4港（十勝港、釧路港、厚岸港、花咲港）における2019年8月～10月中旬の合計水揚げ量は81.0トンで、前年（159.6トン）を下回った。旬別の漁況の経過を図3-1に示す。

2. 根室海峡～オホーツク海域

羅臼港における2019年8月～10月中旬の合計水揚げ量は123.3トンで、前年（7.9トン）を上回った。旬別の漁況の経過を図3-2に示す。

3. 津軽海峡～道南太平洋

大畑港、函館港、浦河港における2019年8月～10月中旬の合計水揚げ量は162.4トンで、前年（483.1トン）を下回った。旬別の漁況の経過を図3-3に示す。

4. 常磐～三陸海域

青森県（白糠港、泊港、三沢港、八戸港）、岩手県（主要7港）、宮城県（気仙沼港、石巻港、女川港、志津川港）における2019年8月～10月中旬の合計水揚げ量は1902.8トンで、前年（929.9トン）を上回った。旬別の漁況の経過を図3-4に示す。

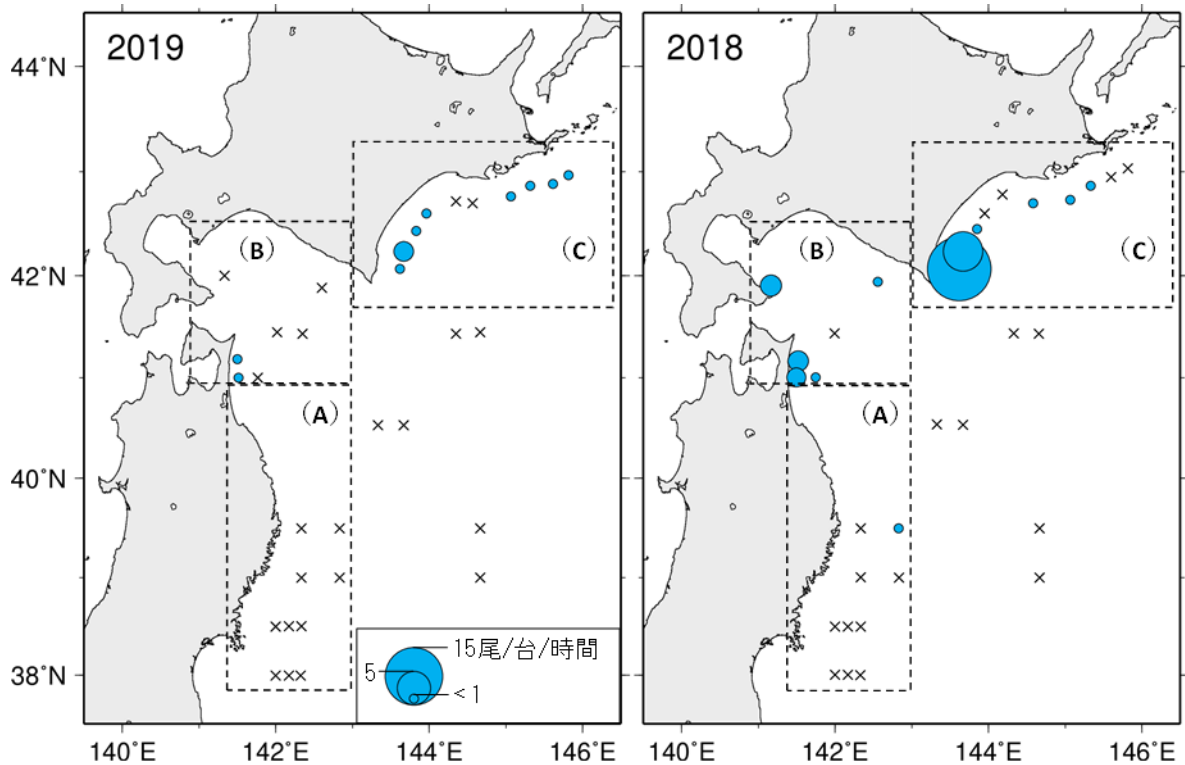
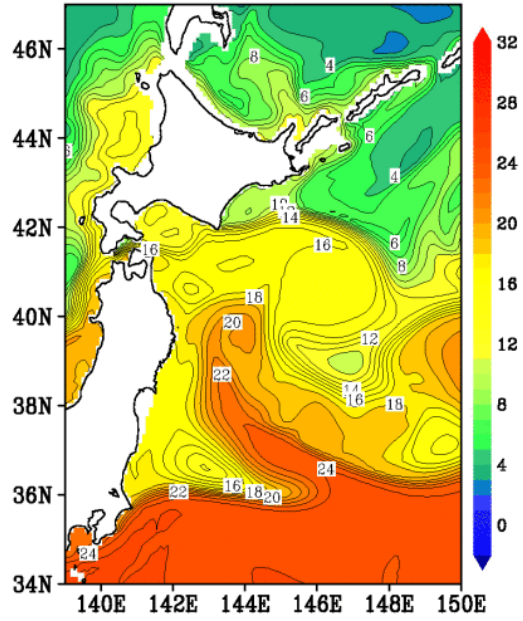


図1. 太平洋におけるいか釣り調査によるスルメイカのCPUE（いか釣り1台1時間当たり漁獲尾数）2019年8月～9月（左図）、2018年8月～9月（右図）のいか釣りによるスルメイカのCPUE（いか釣り機1台1時間当たり漁獲尾数）の分布を左図右下の凡例にしたがって示す（×は漁獲なし）。破線で囲まれた海域は（A）常磐～三陸周辺海域、（B）津軽海峡～道南太平洋海域、（C）道東太平洋海域および根室海峡～オホーツク海域における来遊量予測の根拠となった調査海域を示す
（2019年 第2回 太平洋スルメイカ長期漁況予報より抜粋）

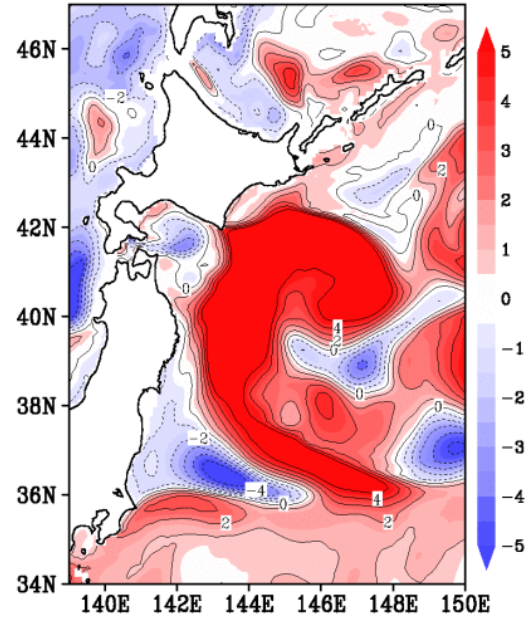
FRA-ROMS

2019/11-early Temperature[°C] (50m)



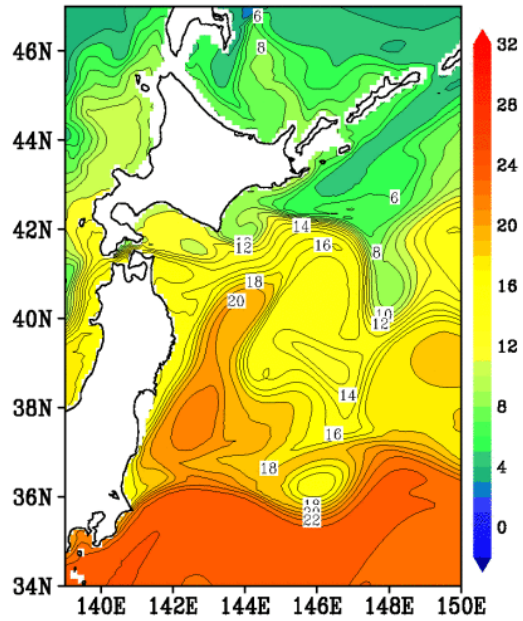
FRA-ROMS

2019/11-early Temp. anomaly(Average year)[°C] (50m)



FRA-ROMS

2019/11-late Temperature[°C] (50m)



FRA-ROMS

2019/11-late Temp. anomaly(Average year)[°C] (50m)

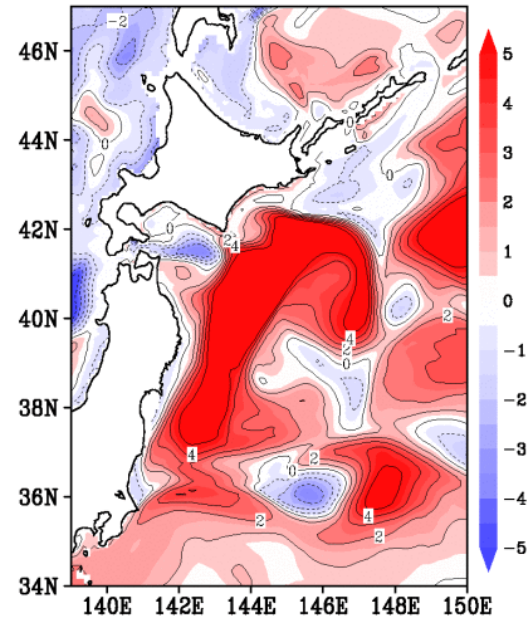


図2. 海況予測システムFRA-ROMSによる2019年11月上旬（上段図）と下旬（下段図）の50m深予測水温（左図）および平年差（右図）

注：50m深はスルメイカの代表的な分布深度

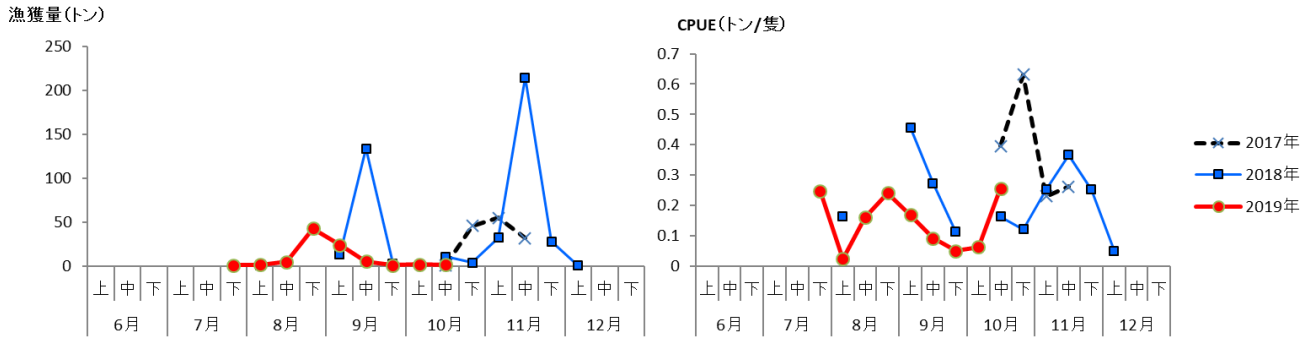


図3-1. 道東太平洋の主要港におけるスルメイカ釣りによる旬別漁獲量（生鮮）とCPUE

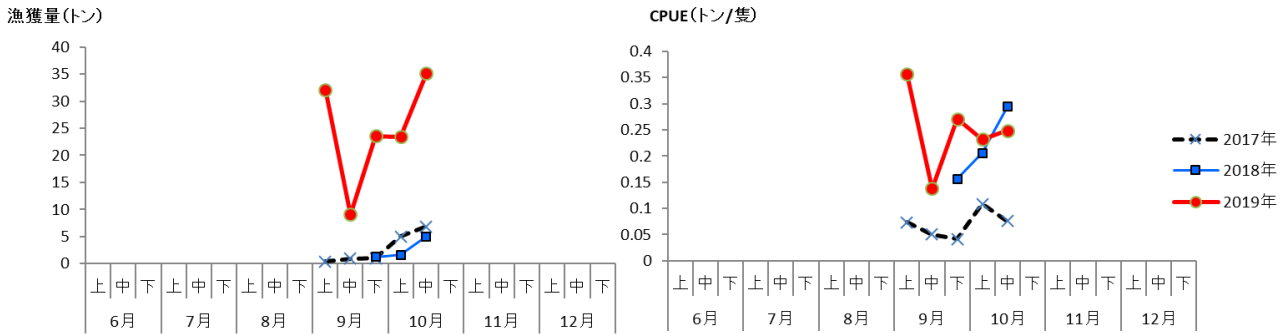


図3-2. 根室海峡～オホーツク海域の主要港におけるスルメイカ釣りによる旬別漁獲量（生鮮）とCPUE

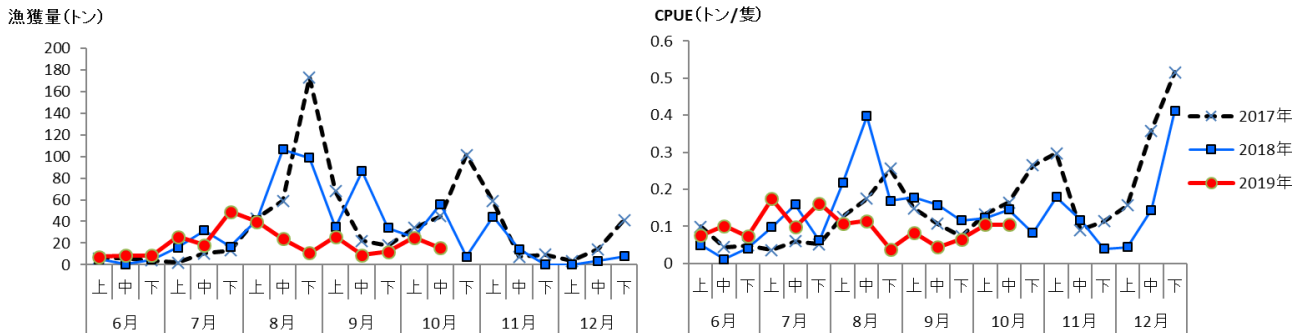


図3-3. 津軽海峡～道南太平洋の主要港におけるスルメイカ釣りによる旬別漁獲量（生鮮）とCPUE

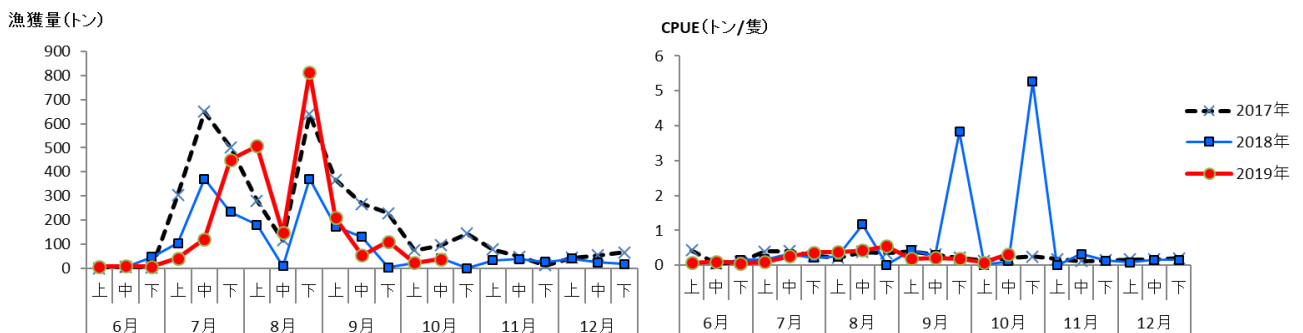


図3-4. 常磐～三陸海域の主要港におけるスルメイカ釣りによる旬別漁獲量（生鮮）とCPUE

注：CPUEは1日1隻当たりの漁獲量

参 画 機 関

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 釧路水産試験場 函館水産試験場	三重県水産研究所
地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	和歌山県水産試験場
岩手県水産技術センター	高知県水産試験場
宮城県水産技術総合センター	国立研究開発法人 水産研究・教育機構 中央水産研究所 東北区水産研究所 日本海区水産研究所
福島県水産海洋研究センター	(取りまとめ機関) 一般社団法人 漁業情報サービスセンター
茨城県水産試験場	
千葉県水産総合研究センター	
神奈川県水産技術センター	
静岡県水産技術研究所	